

令和3年度 高短生調査の結果報告

高田短期大学 自己点検・評価委員会

<本調査の目的>

高田短期大学に在籍する学生に対して質問紙調査を行い、学生の学習成果や短大生活の満足度等を把握し、高田短期大学の今後の教育や学生支援を改善・向上させていくための基礎資料の蓄積を目的とする。

<調査方法>

高田短期大学の全学生を対象として実施し、調査項目は「基本属性」「1週間の活動時間」「授業内外における学習行動」「短大生活全般」「学習・生活支援」「キャリア支援」「学習環境」である。

<結果>

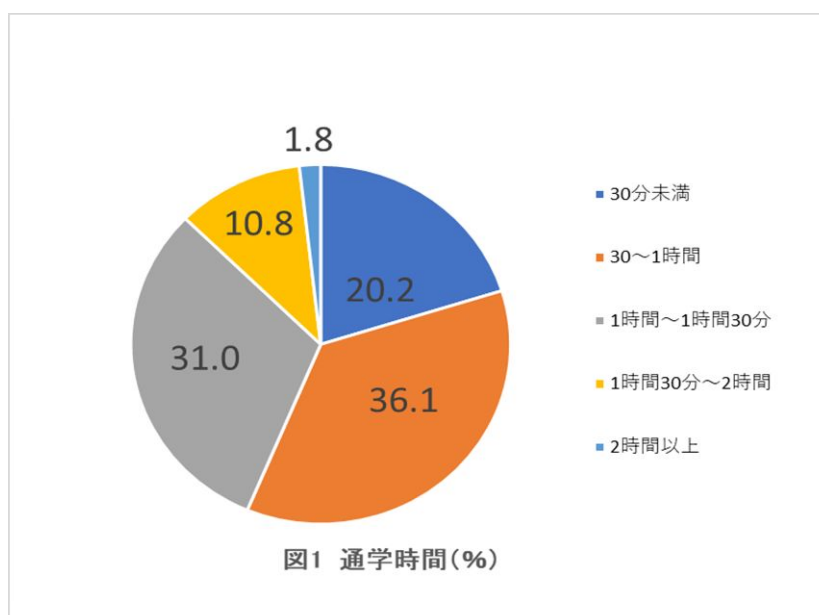
基本属性：所属学科および学年を表1・2に、通学時間を図1に示した。(回答者のみ)

表1 所属

	人数	%
子ども学科	230	69.3
キャリア育成学科オフィスワークコース	81	24.4
キャリア育成学科介護福祉コース	21	6.3
合計	332	100.0

表2 学年

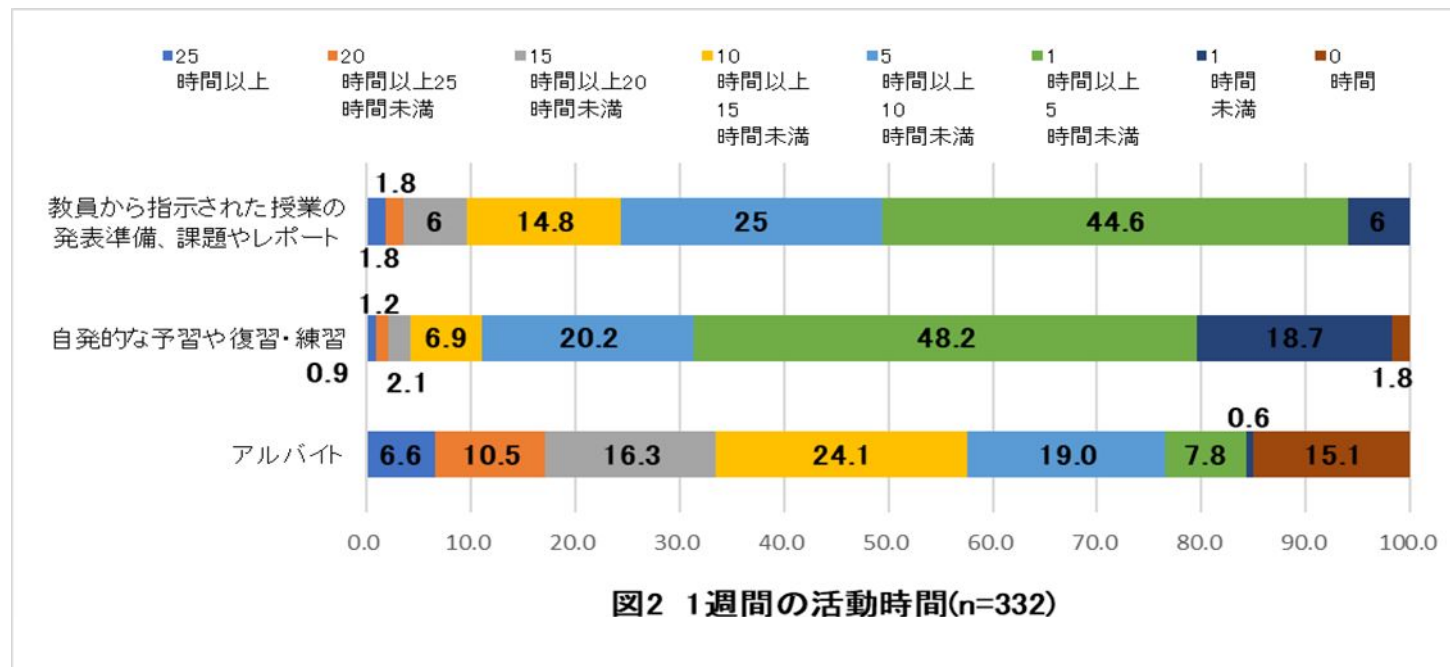
	人数	%
1年	214	64.5
2年	118	35.5
合計	332	100.0



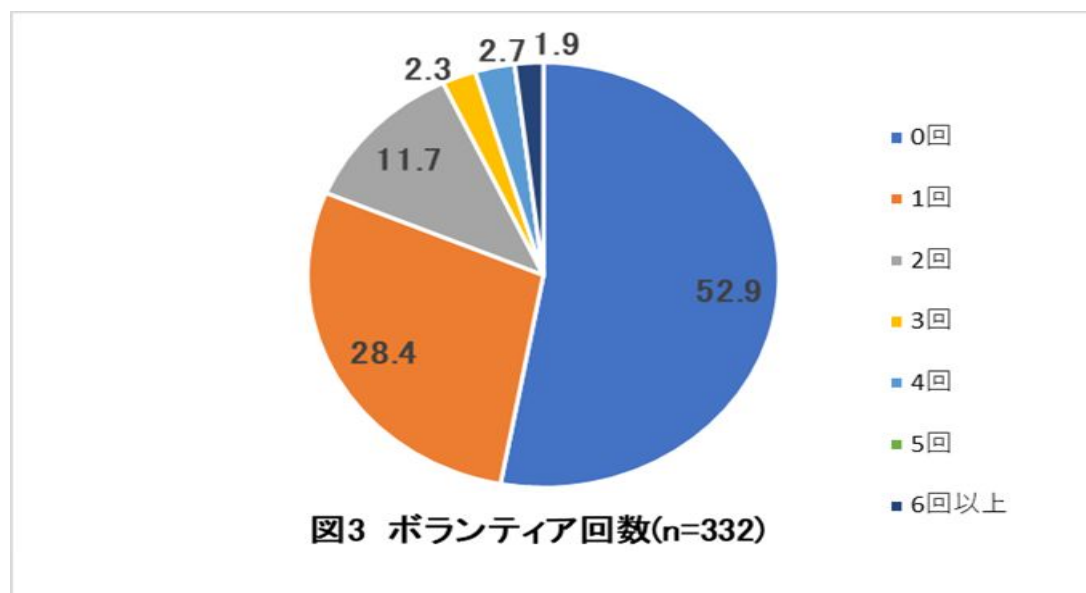
<結果>

令和3年度

1週間あたりの活動時間



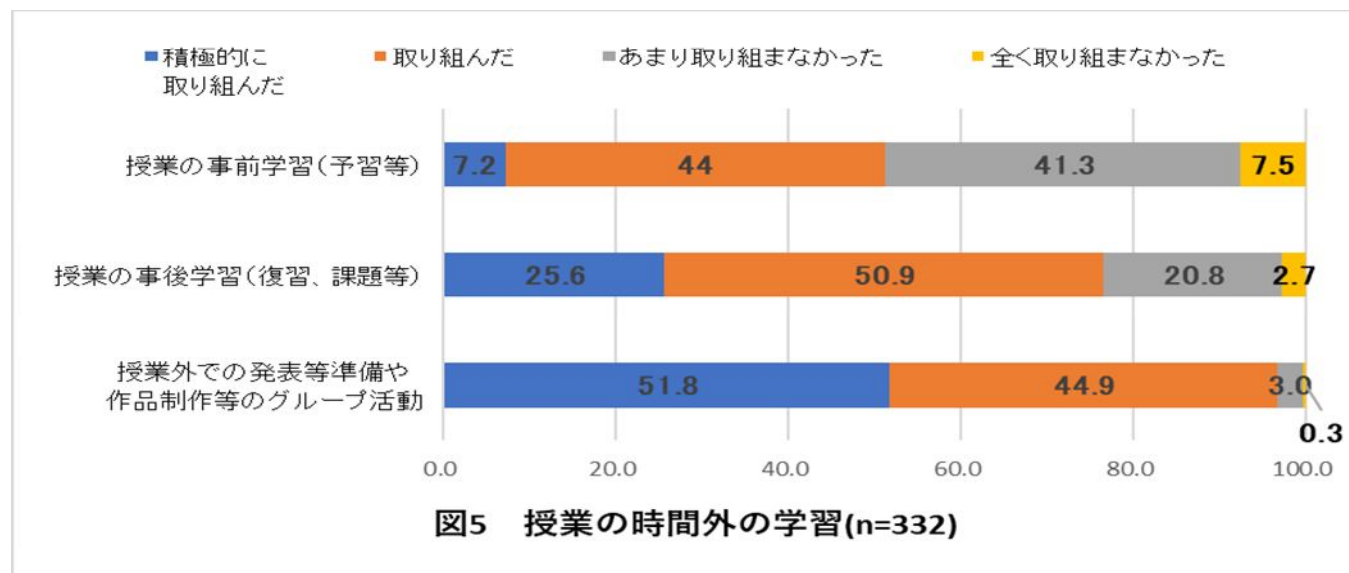
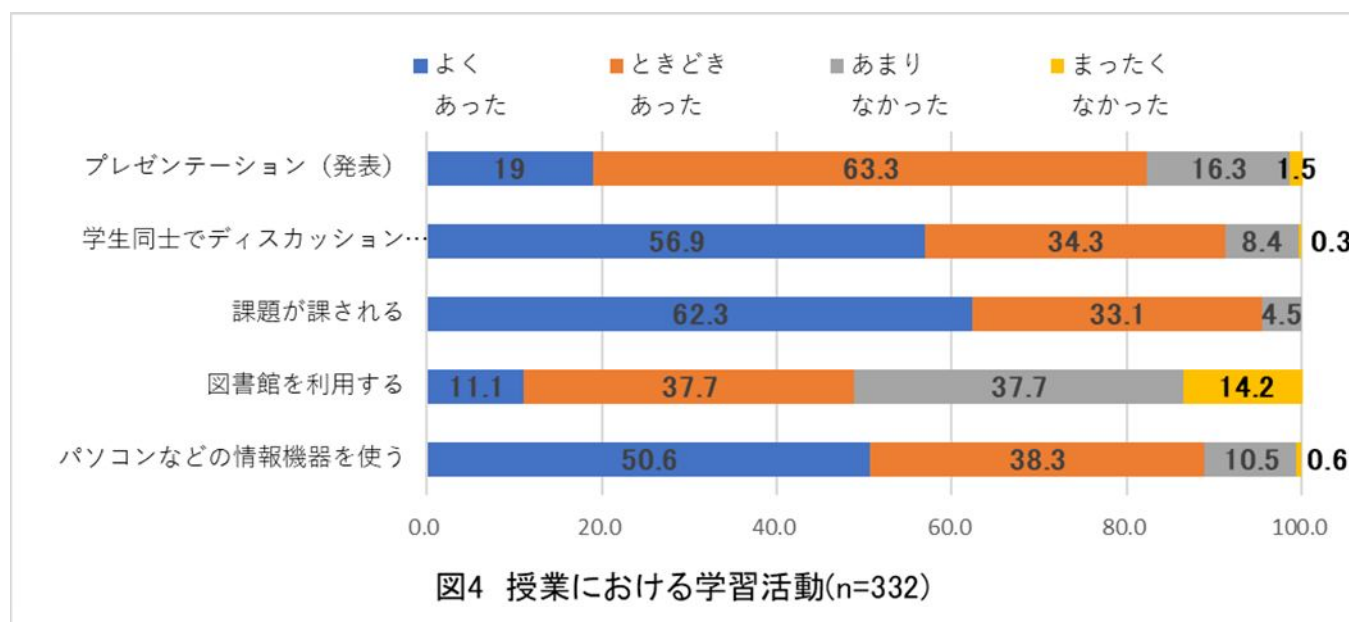
1年間のボランティアおよび地域交流活動への参加回数



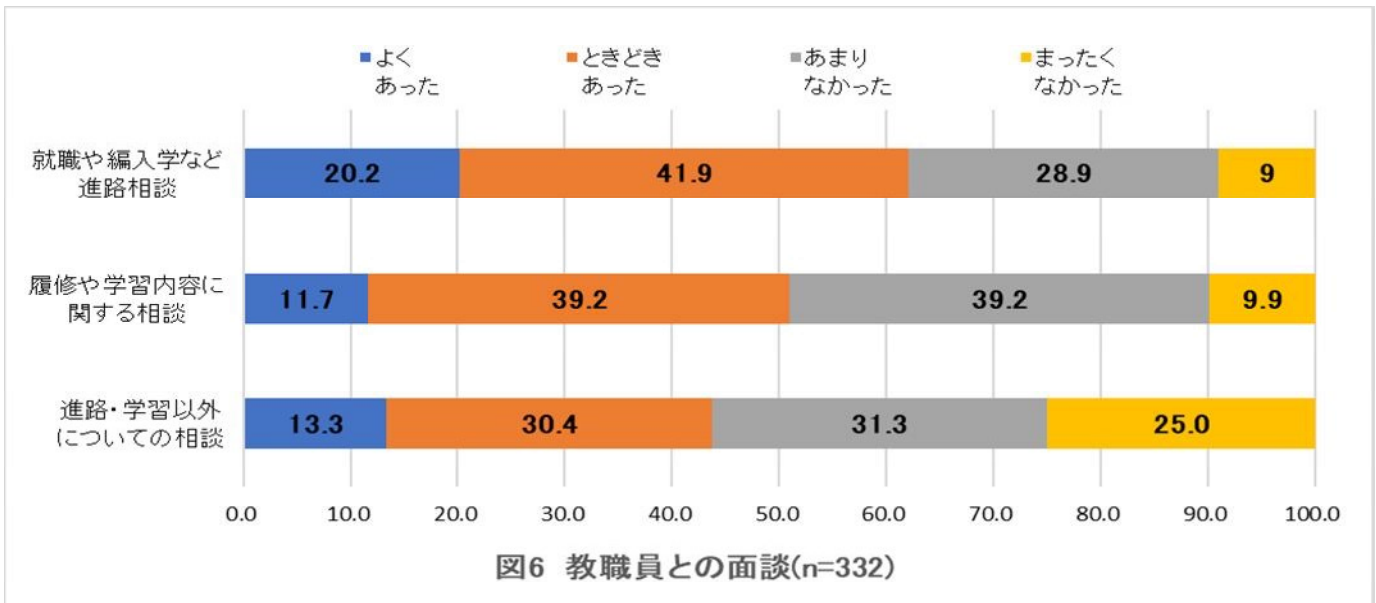
＜結果＞

令和3年度

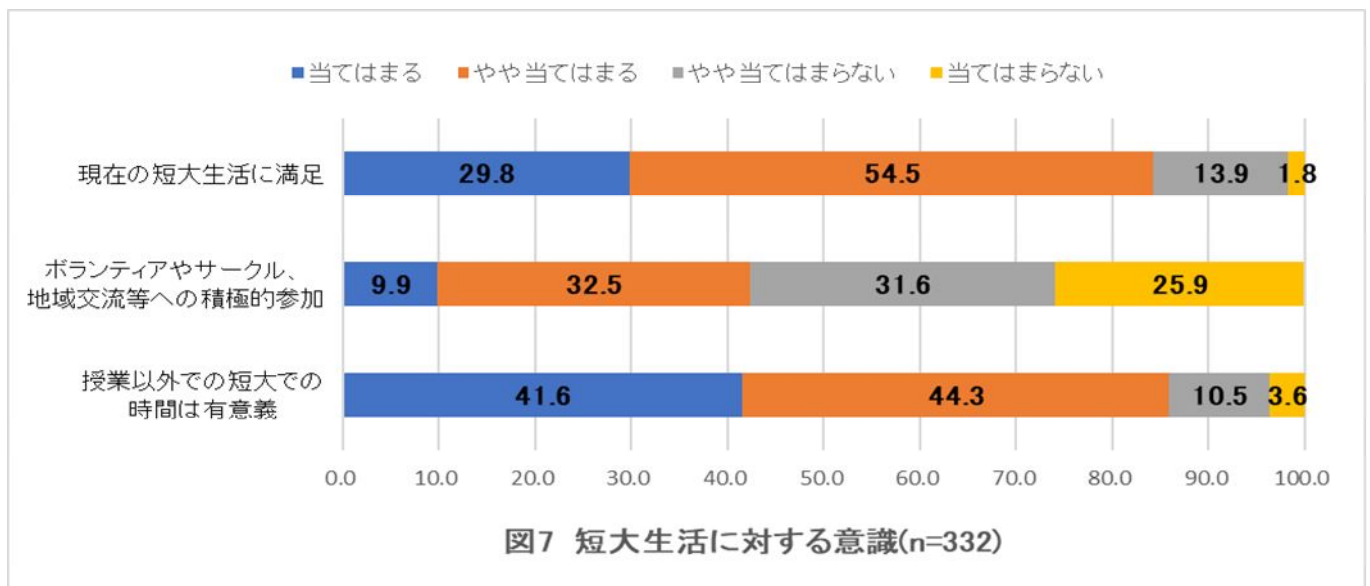
授業内外における学習行動



教職員との面談機会

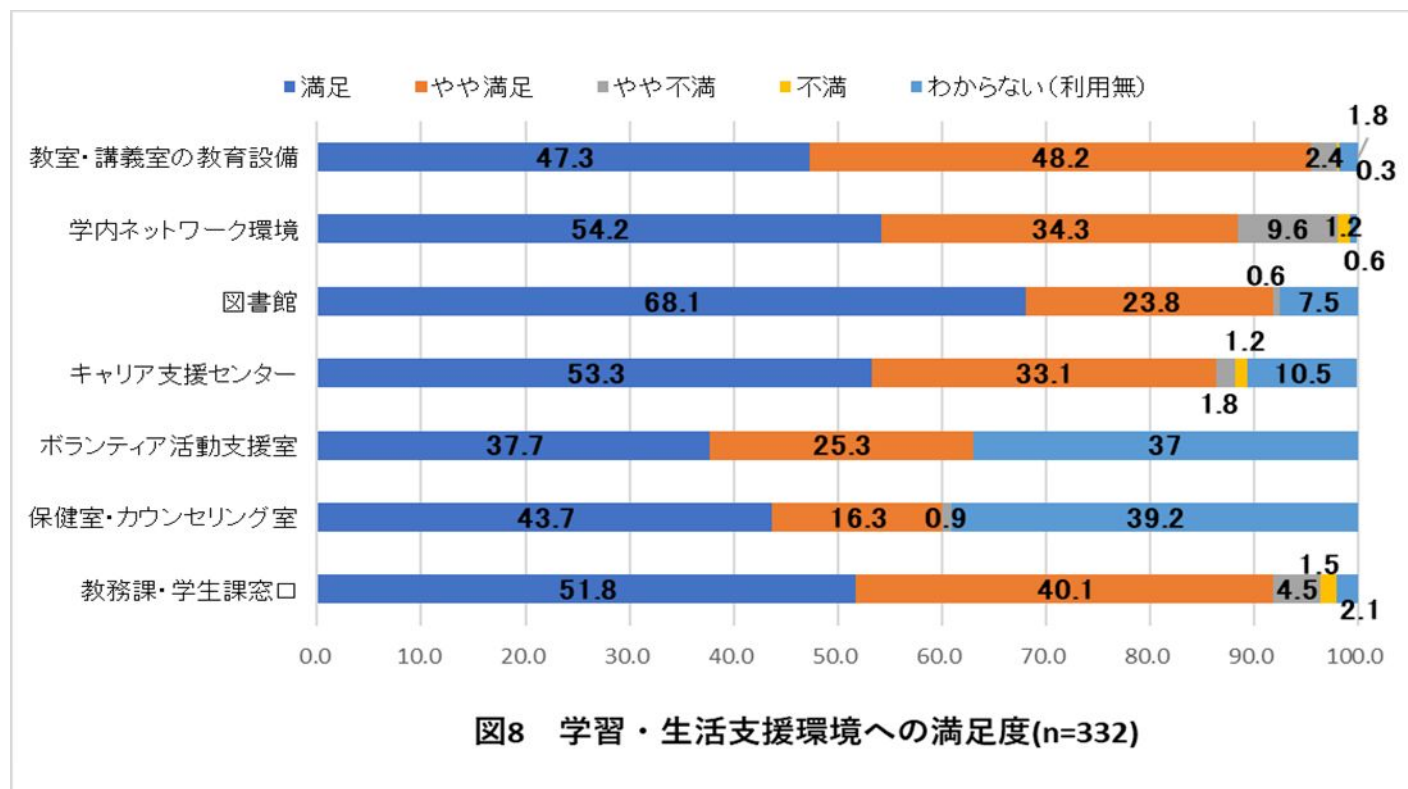


短大生活全般の意識



<結果>
令和3年度

学習・生活支援・環境



<p>* 分析対象 調査は513名の学生に行ったが、無回答を除いた332名のみ分析を行った(回答率64.7%)。</p>
<p>* 通学時間(図1): 1時間以内通学圏内の学生が56.3%で半数以上であった。</p>
<p>* 1週間当りの活動時間(図2): 授業外での学習時間では、課題やレポート等には1週間で5時間未満と回答する学生が50.6%で、予習・復習等自発的な学習では5時間未満が68.7%であった。アルバイト時間では、していない学生は15.1%であり、1週間15時間以上の学生が33.4%であった。</p>
<p>* ボランティア等の参加回数(図3): 1年間にボランティアや地域活動に一度も参加していない学生は52.9%であり、3回以上参加している学生は6.9%であった。</p>
<p>* 授業内における学習行動(図4): 図書館の利用があった(よく+ときどき)の回答となかった(あまり+まったく)の回答がおおよそ半数ずつである。また、プレゼンテーションは82.8%、グループワークや課題は90%前後の高い割合であった。グループワークはよくあったと回答している学生は56.9%であった。</p>
<p>* 授業外の学習行動(図5): 事前学習と事後学習への取り組み意識は事後の方が高い傾向であった。授業内でのグループワークの機会が多い結果であったが、授業外でのグループ活動への取り組み意識も高かった。</p>
<p>* 教職員との面談機会(図6): 進路相談62.1%、学習関連の相談50.9%のが学生が面談の機会をもっていた。進路・学習以外の生活等の面談は43.7%の学生があると回答していた。</p>
<p>* 短大生活に関する意識(図7): 84.3%の学生が現在の短大生活に満足しており、短大での授業以外の時間も有意義に過ごしていると回答した。</p>
<p>* 学習・生活支援及び環境(図8): 本学の学習支援や生活支援に関する調査7項目すべてが90%前後(わからない・利用無を除く)の満足度であった。</p>
<p>* まとめ ・結果のほとんどが昨年度と大きな違いが見られなかった。 ・ボランティアに3回以上参加した学生は減っており(12.9%→6.9%)、新型コロナウイルス感染症の影響により参加の機会が減っているのではないかとされる。 ・グループワークの頻度は昨年度より増えており(45.0%→56.9%)、グループワークの効果を考え、感染対策をした上での実施をしているのではないかと考えられる。 ・昨年度以上に回答率が減少した(80.9%→64.7%)。新型コロナウイルス感染症の流行により、口頭での調査依頼ではなく遠隔での依頼であったことが影響していると考えられる。</p>